

日本共産党 和歌山市会議員

ひめだ高宏ニュース

NO.1123

16.10.11

9月定例会市議会報告

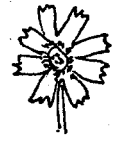
10月もなわばりとなり朝夕はめっきり涼しくなりました。今号は、9月定例会市議会を新たに策定された「和歌山市奨学金返還助成制度」と、この制度のための基金条例の概要について報告します。

市奨学金返還助成制度創設

NHKクローズアップ現代で、6月と8月に放送された「奨学金破産」①大學生の2人に1人が借りて、奨学金を返したくても返せずに自己破産した件数が1万件。②奨学金を借りて生活のためのアルバイト

に追加の単位が取れず大学を中退する人が年間8万人。給付制の奨学金がないことが社会問題になっています。9月定例会市議会で策定された「和歌山市奨学金返還助成制度」は、この問題を直接解決できるものではあ

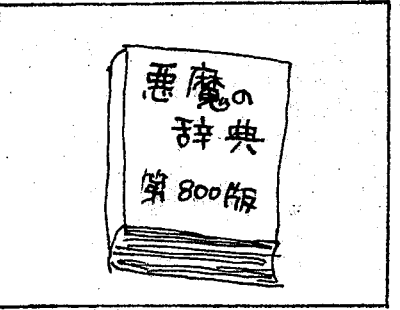
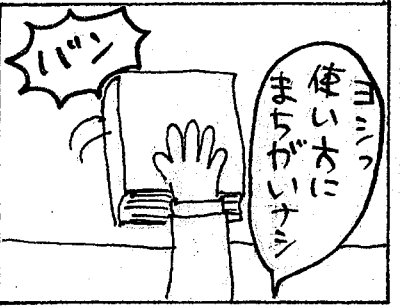
りませんが、初めての取り組みとして日本共産党市議会も制度の創設に賛成しました。その概要は次のとおりです。この奨学金返還助成制度は、地域に就職・定着し、かつ地域を担う人材を確保するため、地元産業界と和歌山市で連携し、學生の奨学金返還に対して助成を行う制度です。企業等と和歌山市の出捐比率は1対1とし、4年制大学の場合は最大50万円ずつ出捐し、100万円を助成上限額とします。対象者は大学生・短大生・大学院生・専門学校生で、日本学生支援機構から奨学金を借り、卒業後、市内に居住し、市内の指定



フリーの人々



【領収書】政治家が練金術に使う道具。政治資金集めのパーティ開催時には時に白紙のものも用いる。



企業・業種に3年間定着することが支給要件です。助成額は年25万円、2年制は上限50万円、3年制は75万円、4年制は100万円、6年制は150万円です。

今週のフリー人々

(その69)

白紙領収書疑義

「永田町の常識は、世間の非常識」そのことば通りだったことが今回の領収書白紙疑義です。

政治資金規正法第2条(基本理念)「この法律は、政治資金が民主政治の健全な発達を希求して拠出される国民の浄財であることにかんがみその収支の状況を明らかにするに努め、これに対する判断は国民にゆだね、いかにしても政治資金の扱

対象業種は、病院、診療所、歯科医院、医薬品販売店、介護老人福祉施設等の専門的職種で、出捐金を出す所に限られます。市は4千万円の出捐金を予算化。

出に關する国民の自発的意識を抑制する」との反意のように、適切に運用されなければならぬ。政治団体は、その責任を自覚し、その政治資金の収支に当たっては、いかにしても国民の疑念を招くことのないように、この法律に基づいて公明正大に行わなければならない。菅官房長官や稲田防衛相、高市総務相はこの法律の理念を重んずる気がサラないといふことです。



ひめだ高宏

あるところにはあるとやす。

9月定例市議会の補正予算の歳入に特別土地保有税54億720万8600円とその延滞金35億1860万3000円、合計89億2581万1600円が増額補正されました。

特別土地保有税は、土地の有効利用の促進と投機的な土地取引の抑制のために5000㎡以上の土地の保有及び取得に対して課税す

る市税です。05年度から課税停止。

しかしながら当該土地の用途が条件を満たした場合には2年間(延長あり)徴収を猶予し、その猶予期間

お月さんと薪がきれいだった

10月9日(日)片男波公園で「万葉新能」を見ました。狂言「萩大名」と能は「恋の車荷」の演目。

「条件を満たすと納税義務が免除されます。今回、05年度の制度改正による10年間の延滞を適用していた土地について、徴収猶予期間が終了したため7月27日に89億円が納税されたといふことです。スゴいね。

老人の恋がテーマというところでしたが、セリフがまったくと頭に入らなかつた。それが車荷になりました。

日本共産党

原発と国民生活

2011年3月の東日本大震災から1日で5年7か月。地震と津波で大事故を起こした東京電力福島第一原発の収束のめ

の原発での再稼働の動きが続き、安倍自公政権はついに運転開始から40年以上たった老朽原発まで再稼働させようとしています。しかも事故処理に巨額の費用がかかるからと、東電への新たな支援や原発の廃炉の費用を国民に押し付ける検討も始めています。原発事故の教訓をくみ取るどころかせ

ず、「原発ゼロ」の願いにも背を向けた一連の動きは、国民の安全にとつても負担の上からも認められないものではありません。安倍政権の原発依存・推進姿勢を激しく追及して原発再稼働の企てをやめさせ「原発ゼロ」に踏み出させることが重要

潮流

こんな川柳がラジオで紹介されています。た。入資金源「パーテイ」ならば「胸張

した筆跡が同じの領収書。主催者側が白紙で出し、私った側が好きな金額を書き込める。おおよそ領収書の体をなしてないことが「しば」(稲田防衛相)が行われていたのです。各メディアが取り上げ、党本部や「赤旗」にも連日、街の声が届いています。なかには白紙の領収書について財務所に聞いたら、「絶対、通らない」と言われたと。富山の領収書偽造といい、彼らのおしき憤りがいかに世間では通用しないか。何ら問題はない」と聞か直る安倍政権の閣僚たち。所管大臣の高市総務相にいたっては法的に問題なく、資格が認められる容弁と平然と非常識の世界にとっぷり浸った彼らに国民に寄り添う政治など望むべくもないであろう。

で小池見議員が追及しました。赤旗日曜版がスクープ

赤旗 日刊新 3.4.7.11月